

=本日および今週の礼拝・集会等=

※新型コロナウイルス対策のために会堂での礼拝他すべての行事を中止します。

=今週の祈りの課題=

- 認め合うことができない関係の間に、主イエスがおられとりなして下さることを覚えて祈りましょう。
- 「真理の霊が来る時」を思い、ペンテコステに備えて祈りましょう。
- 浪江伝道所(活動休止中)を覚えて祈りましょう。

=今週の聖書日課=

5/11(月)	ローマ	1:1～17
5/12(火)	〃	1:18～32
5/13(水)	〃	2:1～16
5/14(木)	〃	2:17～29
5/15(金)	〃	3:1～20
5/16(土)	〃	3:21～31
5/17(日)	〃	8:28～39

=牧師室より=

- *5/12(火) 午前 農村伝道神学校
- *5/14(木) 終日 〃

=献金に関するお願い=

※皆様ご存じのように、感染症による状況は相変わらず厳しく、現時点では、会堂

礼拝を再開できそうにありません。引き続き個人々人の祈り、家庭礼拝などでの献金をお願いいたします。

=報告=

* 本日、13:30より定例の役員会を行います。(インターネットを介して参加する役員が多数あります。)

延長された非常事態宣言にともない会堂の礼拝など行事もしばらくの間再開することができませんが、主な話し合うことを以下にてお知らせします。これからの教会の歩みに、みなさまの祈りとお支えをお願いいたします。

- 再開後の礼拝の持ち方をどうするかなどについて話し合います。
- 通常の収入が途絶えているために特別会計から繰り入れることについて(5～6月には170万円近くの支出が見込まれています。)
- 延期されている総会については、どうするのか?(書面により最低限の承認をとる等) などです。

=個人消息=

(15年) 7月28～30日、救援対策本部の派遣で、福島県内の11の教会・伝道所および関係施設を訪問した。地震によって被災したが、この4年余りの期間に再建・補修に至った教会堂を見させていただき、お話しをお聞きして胸が熱くなった。

一方、放射性物質による汚染とその対応の現状については、何とも重い気持ちになった。保科隆東北教区副議長の家内で、小高伝道所(福島第一原子力発電所から約18㎞)と浪江伝道所(同約10㎞。立ち入るには許可書が必要)に立ち寄った。教会堂は震災時のままで、かつては整えられていたであろう浪江伝道所の前庭は草ぼうぼうで、放射線量が高かった。その浪江から常磐自動車道に入り、車で走行したが、道路脇の「この付近毎時1.0～5.2μシーベルト」との放射線量の表示には何とも言えない不気味さを感じた。

放射線量については地域によって差があり、除染の状況によっても違いがある(その問題も大きい)。さらに、何

「祈りに覚える東日本大震災被災教会」浪江伝道所…牧師の随想

人もの方から、放射能汚染問題について口に出せない思いがあることを聞いた。教会関係の集まりであっても、他の人の発言や体験談を穏やかな気持ちで聞くことができない思いや葛藤があることも聞いた。それぞれに口に出せない思いを抱えて、その人なり、教会や施設なりの防衛策をとって、毎日の生活を送っているのである。

被災地の復興の状況は多様であるが、放射性物質拡散による汚染の問題は今後も長く、重く続くことは間違いない。

(教団総会書記 雲然俊美)
教団HPより

左記報告の前年に、教団の全国規模の集會に参加し、浪江伝道所を訪ねました。街全体が避難当時のままでした。案内された教会の庭は草が生い茂るま、建物の中も、地震により床に散乱した聖書や賛美歌、部屋の床全面を覆う塵埃を覗いて、胸が締め付けられるような思いにかられました。

放射能汚染の要因となっているセシ

牧師